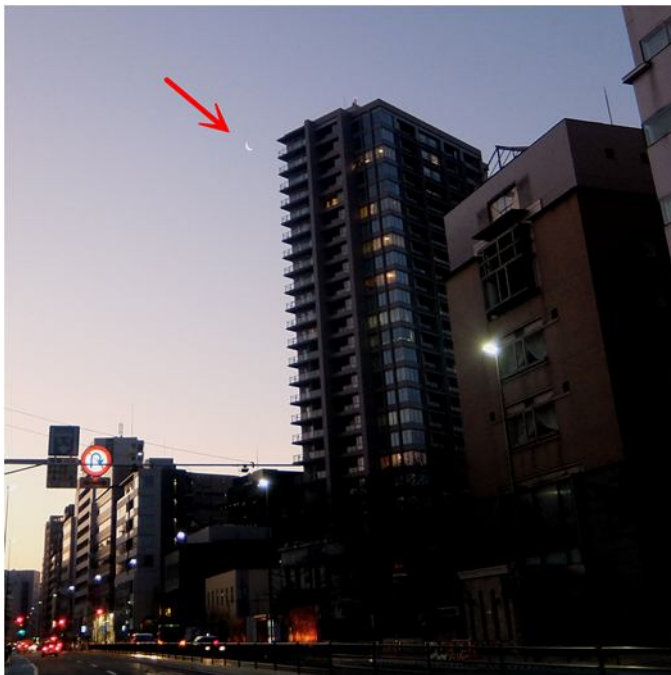


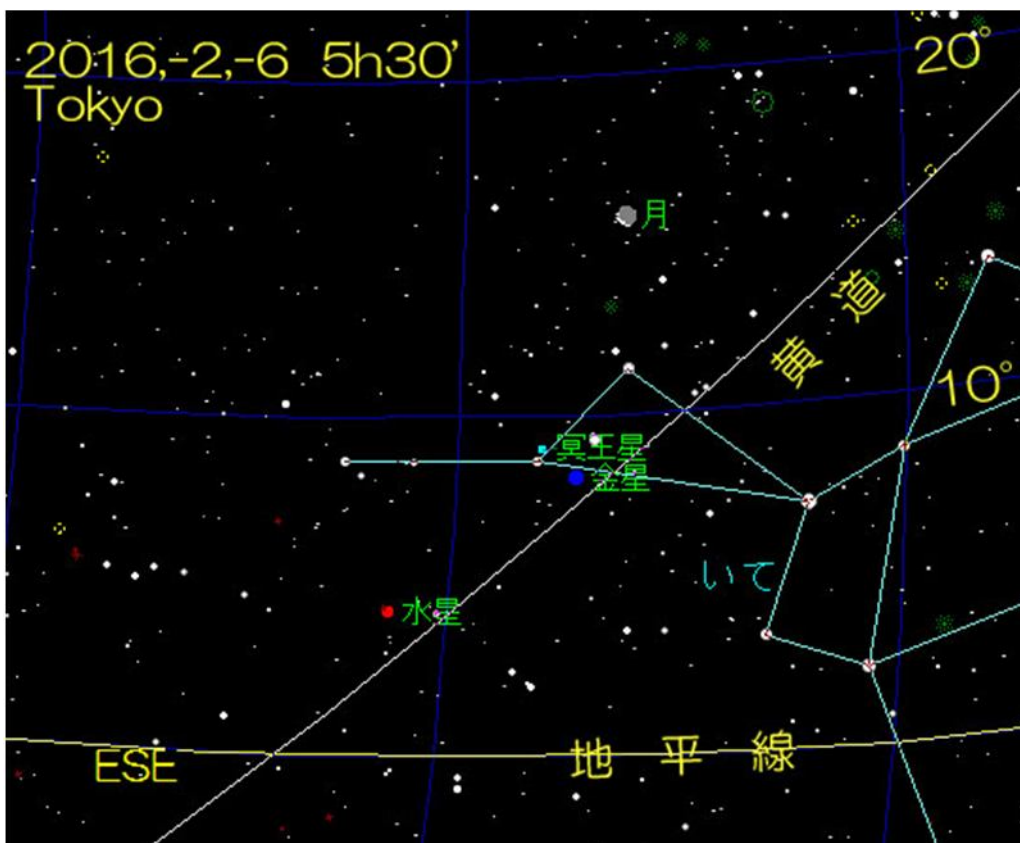
「明日の早朝！月と金星が接近」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今日の早朝、茗荷谷駅の近くで、東の空から昇って来る細い月が見えた。三日月とは逆の形の「二十六日月」だ。三日月は、西の空で太陽を追いかけるように沈む。二十六日月は、その逆の動きをする。間もなく、月の左下から昇って来る太陽の明るさで、かき消されてしまった。



上が今朝の月の拡大写真だ。まさに「三日月の逆の形(向き)」である。二十六日月の翌日の月は、二十七日月だ。新月に非常に近い、非常に細い月だ。月は天球の日周運動よりも、見かけ上遅く動く。つまり、翌日の同時刻には、約 15° 東よりに見えることになる。今朝の月の東より(月の左下)には、金星(明けの明星)がある。明日(2月6日)の早朝には、金星にかなり近づいて見えるはずだ。地平線付近が開けた河川敷なら、水星も見えるだろう。



左図は、「The Sky」で計算した、明日(2月6日)早朝(午前5:30)の東の空の星図である。水星は地平高度約 4° 、金星は約 8° 、月は約 16° である。金星と月はほぼ垂直に並んで見え、その離角はわずか 8° である。腕を伸ばして、「こぶし1個分」よりも近い。(月の視直径は約 0.5° なので、それでも月の直径15個分もある。)

明日の早朝、もし晴れていれば、すばらしい風景が見られるだろう。

作図 ; C. Tanaka